

保育参観、お別れパーティーでは子供たちの成長した姿をご覧いただきましてありがとうございました。おかげ様で今年度も無事終わろうとしております。

さて、本園は青少年育成秩父市民会議に加盟しています。耳慣れないと思いますが、この会議は市内の企業や学校などが加盟しており、定期的に会議を開いて子ども達の健全育成のために何をすべきかを話し合っております。先日、その会議で二学期のあいさつ運動を終えての意見交換会がありました。

小中学校の校長先生、警察や商工会の方など、様々な方がいらしていましたが、その中であいさつについての共通した意見として挙げたことがあります。それは、あいさつは相手を認めているというメッセージであるということです。そして、忙しい日常の中では、おぎなりにされがちですが、子供よりもむしろ大人たち自身があいさつの大切さを再認識していくべきだということでした。

幼稚園ではあいさつ運動の日だけでなく、毎日の保育の中で繰り返し声をかけて、あいさつを教えています。あいさつに限らず、保育の現場では「こうなってほしい」ということを言葉ではなく、態度で示します。姿勢を正すことを教えるにはまず大人がしてみせる、私語を慎むべき所ではまず大人が私語を慎むなどです。子供は言われたとおりに育つのではなく、周りの大人がすることをまねて、学んでいきます。私も親として反省すべき所がたくさんあるので、園でも、家庭でも実践していきたいと改めて感じました。

また、警察の方にお聞きした話ですが、子供が非行や引きこもりに至る背景には必ず、家族のコミュニケーションの欠如が原因としてあるそうです。仕事などで忙しくて、メールが便利だからと、それだけでやり取りするのではなく、手書きのメモひとつでも愛情を伝える手段になります。子供が道をそれそうになったら、まずあいさつや簡単な会話から始めるべきだというお話でした。思春期などで返事がないような年頃でも、根気強く声をかけ、あきらめずにコミュニケーションをとることで改善する例が多いそうです。極端な話だと思われるかもしれませんが、今後子供が成長するに従って、いろいろな時期がありますので、頭の片隅においていただければと思います。

年長さんはまもなく小学校に入学します。できれば入学直後だけでなく、高学年、中学生になってからも、家庭の中や地域で子供たちに声をかけることを大切にしていきたいと思います。子供をねらった悪質な犯罪なども後を絶ちませんが、地域で子供に目を向け、声を掛け合うことでそういった犯罪を予防することにもなります。地道なことではありますが、あいさつを交わし合い、子供たちを取り巻く環境を明るく過ごしやすいものにしていきたいと思っております。

かみたの幼稚園 園長 井上 朱美